

未来のための環境創造企業



環境活動レポート 対象期間 2017.10.1~2018.9.30

Environmental Activity Report

2018

発行日：2018年11月28日



目次 Contents



組織の概要

- 1.~8. 事業所名、代表者名、創立、所在地、資本金、
環境管理責任者、事業内容、事業規模 1 page
- 9. 認証登録範囲 2 page
- 10. 対象組織図 3 page



許 認 可

- 1. 収集運搬業 4 page
 - 1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧 5 page
 - 1-2. 許認可別車輛一覧 6 page
- 2. 産業廃棄物処分業 7 page
 - 2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧 8 page
 - 2-2. 産業廃棄物処分フロー図 9 page
 - 2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績（2018年度） 10 page



環 境 方 針

11 page



環 境 活 動 計 画

12 page



環 境 目 標 ・ 実 績

- 5-1. 2018年度目標及び取組み結果（取組み2年目） 13 page
- 5-2. 年度別環境目標（中期3か年） 14 page



環境活動結果とその評価、 次年度の取組み内容

15 page~
18 page

環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

- 7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果 19 page
- 7-2. 違反・訴訟の有無



代表者による見直しと評価の結果

- 8-1. 代表者による全体評価と見直し 20 page~
21 page
- 8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い） 22 page



1. 組織の概要 *Summary of the organization*

1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはいつこうぎょう)
2. 代表者名 代表取締役 高澤 洋一 (たかさわ よういち)
3. 創 立 1976年(昭和51年)5月19日
4. 所 在 地 北海道北広島市北の里41番地27
5. 資 本 金 4,800万円
6. 環境管理責任者 企画部 部長 佐々木 リサ
【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499
E-Mail : lisa@kklp.co.jp

7. 事業内容
- ① 廃油(潤滑油)収集運搬・再生重油製造販売事業
 - ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ④ 特別産業廃棄物(低濃度PCB含む)収集運搬事業
 - ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
 - ⑥ 油漏えい事故対応事業
 - ⑦ 一般貨物自動車運送事業

8. 事業の規模

活動項目		2016年度 2015.10~2016.9	2017年度 2016.10~2017.9	2018年度 2017.10~2018.9
産業 廃棄物	収集運搬量	7,813.0 t	7,429.7 t	7,345.4 t
	中間処理量	4,374.8 t	4,396.0 t	4,037.2 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.6 t	0.6 t	0.8 t
売上高		1,040.6 百万円	1,003.4 百万円	1,083.4 百万円
従業員数		64.0 名	64.0 名	61.0 名
総敷地面積		21,099.6 m ²	21,099.6 m ²	21,099.6 m ²
床面積		3,976.5 m ²	3,976.5 m ²	3,976.5 m ²

9. 認証登録範囲 登録組織名 環境開発工業株式会社
 認証の範囲 再生重油製造販売事業、
 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、
 一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、
 油漏洩事故対応事業、一般貨物自動車運送業

◆上空位置図

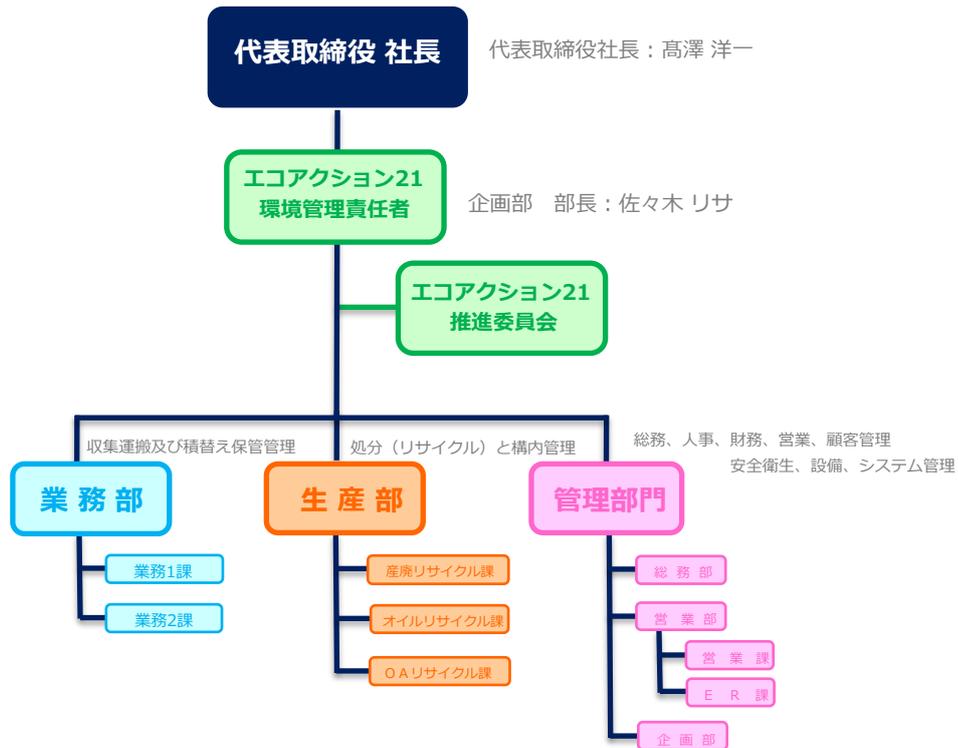


◆構内レイアウト図





10. 対象組織図



代表者	<ul style="list-style-type: none"> 1.環境方針の制定及び改定 2.環境管理責任者の任命 3.環境マネジメントシステム（以下、EMS)に必要な資源の決定と提供 4.全体の評価と見直しの実施（指示）
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 1.EMSの統括 2.エコアクション21推進委員会の委員任命 3.環境活動計画の推進と検証 4.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答 5.環境上の問題点の明確化と解決策の提案 6.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告
推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1.担当部署内のEMSの統括 2.目標及び活動計画の立案と推進 3.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告
各部門	<ul style="list-style-type: none"> 1.環境方針の理解と環境目標達成の推進 2.環境活動への積極的参加 3.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告



2. 許認可 License

1. 収集運搬業

【産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00110004747号
- 許可の年月日 平成26年（2014年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 平成33年（2021年）6月28日



取得済

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00160004747号
- 許可の年月日 平成27年（2015年）7月29日
- 許可の年月日有効年月日 平成32年（2020年）6月28日



取得済

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鋳さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2017年 12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2019年 12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業 廃棄物 収集 運搬業	保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
	保管場所2	汚泥	47.00	40.40	容器保管
	保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
	保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
	保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
	保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	86.00	126.00	屋内保管
	保管場所7	金属くず、汚泥、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず、廃プラスチック類 （水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む）	18.00	9.30	屋内保管
	保管場所8	金属くず	48.58	75.78	2.90
	保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
	保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
	保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	75.00	124.00	屋内保管
	保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
特別 収集 運搬業 産業 廃棄物	保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
	保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
	保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	1.00	屋内保管



1-2. 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】		許認可別収集運搬車両台数			
				普通	特管	PCB	一般貨物
キャブオーバー	10 台	4.70 ~	11.70	10 台	10 台	3 台	3 台
タンク車	11 台	3.00 ~	12.32	11 台	4 台	0 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~	2.40	1 台	0 台	0 台	0 台
バン	7 台	0.40 ~	4.90	7 台	7 台	3 台	2 台
ステーションワゴン	2 台	0.22 ~	0.22	2 台	2 台	0 台	0 台
TOTAL	31 台	-		31 台	23 台	6 台	5 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない【営業・管理車両9台】は除く

環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	1 台	台	1 台	2 台
平成27年度燃費基準達成車	2 台	5 台	台	3 台	台	1 台	11 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	2 台	台	台	台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	1 台	台	台	1 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
プラグインハイブリット車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
TOTAL	4 台	5 台	0 台	5 台	2 台	7 台	23 台

全社所有車両40車中 低公害車導入率57.5% (営業車・管理車両含む)





2. 廃棄物処分量

【産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2016年（平成28年）9月7日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（平成33年）6月28日



【特別管理産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2013年（平成25年）11月27日
- 許可の年月日有効年月日 2020年（平成32年）10月24日



区分	No.	処理施設名	処理能力	
			1日あたり	1時間あたり
産業 廃棄物 処分量	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m ³ /日 (8h)	1.248 m ³ /h
	6	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	7	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	8	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	9	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	11	廃プラスチック類の圧縮施設2	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	12	固形燃料 (RPF)の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
	13	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	ﾌﾞ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) ｶﾞ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
	14	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設2	ﾌﾞ 2.000 t/日 (8h) 金 4.200 t/日 (8h) ｶﾞ 4.200 t/日 (8h)	0.250 t/h 0.525 t/h 0.525 t/h
	15	廃プラスチック類の破碎施設	2.400 t/日 (8h)	0.300 t/h
	16	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
特 管 業 処	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h

【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第181号
- 許可の年月日 2017年 12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2019年 12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

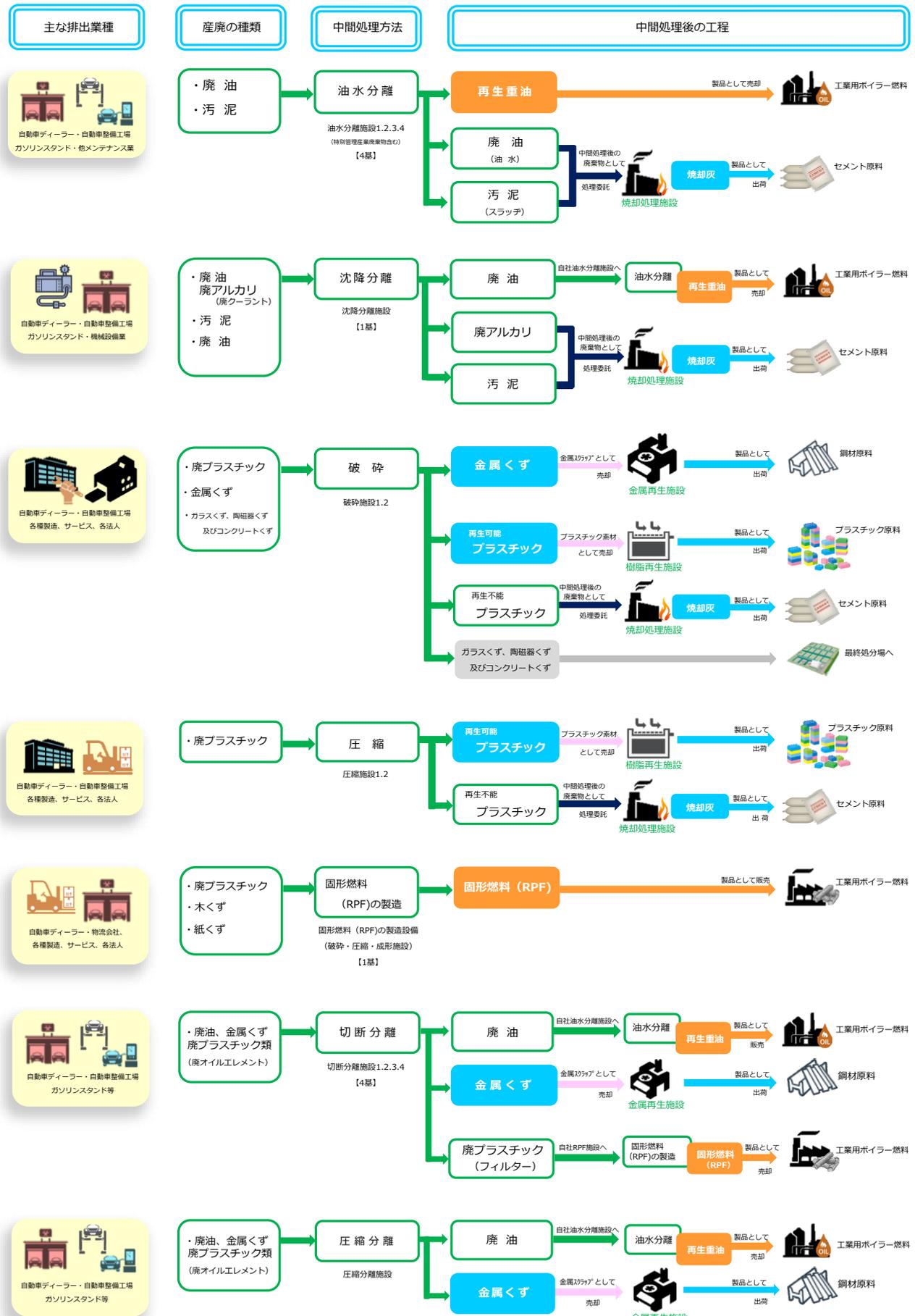
2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業廃棄物処分業	保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
	保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	25.00	24.00	容器保管
	保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所4	汚泥	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	31.60	33.64	容器保管
	保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
	保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
	保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
	保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
	保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
	保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
	保管場所14	金属くず	33.50	41.87	容器保管
	保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
	保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
	保管場所19	廃プラスチック類	8.00	2.80	0.70
	保管場所20	木くず	30.00	30.00	2.50
	保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
	保管場所22	廃プラスチック類	100.00	162.48	容器保管
	保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
	保管場所25	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
	特別管理 産業廃棄物 処分業	保管場所1	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	4.60	7.00
保管場所2		廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	40.30	200.00	屋外タンク



2-2. 産業廃棄物処分フロー図

→ 中間処理 → 当社中間処理後の処理委託 → 売却 → マテリアルリサイクル → サーマルリサイクル → 最終処分





2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績 (2018年度)

【単位：t】

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	2018年度実績	
収集運搬	産業廃棄物	燃え殻	0.0	
		汚泥	210.2	
		廃油	1,898.9	
		廃酸	4.5	
		廃アルカリ	12.8	
		廃プラスチック類	1,478.8	
		木くず	59.9	
		金属くず	2,060.1	
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	16.7	
		がれき類	13.3	
		【混合物】 廃油・金属くず	0.0	
		【混合物】 汚泥・金属くず	4.8	
		【混合物】 廃プラスチック・金属くず	198.8	
		【混合物】 廃プラスチック・金属くず・ガラスくず	247.1	
		【混合物】 廃油・廃アルカリ	380.9	
		【混合物】 金属くず・廃油・廃プラスチック	556.5	
		特別管理産業廃棄物	廃油	186.3
	廃酸 (pH2.0以下)		0.0	
	廃アルカリ (pH12.5以上)		0.8	
	汚泥 (有害)		0.1	
	廃油 (有害)		0.2	
	廃酸 (有害)		0.2	
	廃アルカリ (有害)		0.0	
	強酸		5.5	
	廃ポリ塩化ビフェニル等 (PCB)		4.2	
	【混合物】 強酸・金属くず・廃プラスチック		4.8	
	一廃	OA機器、廃油、廃食油	0.0	
収集運搬量合計			7,345.4	
中間処理	産業廃棄物	廃油	油水分離	1,837.7
			沈降分離	82.2
		廃油・廃アルカリ	沈降分離	348.4
		廃プラスチック類	圧縮	99.1
			固形燃料 (R P F) の製造	205.7
		金属くず	破 碎	745.2
		金属くず	破 碎	46.5
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	破 碎	12.6
		木くず	固形燃料 (R P F) の製造	61.1
		金属くず・廃油・廃プラスチック	切断分離	479.0
	圧縮分離		119.7	
一廃	OA機器、廃油、廃食油	-	0.8	
うち再資源化等	産業廃棄物	廃油	再生重油製造	1,630.3
		廃プラスチック類	固形燃料 (R P F) の製造	597.6
		木くず	固形燃料 (R P F) の製造	61.1
		廃プラスチック類	プラスチック原料	96.4
		金属くず	製鋼原料	46.5
		金属くず・廃油・廃プラスチック	製鋼原料	401.1
			再生重油製造	149.7
	固形燃料 (R P F) の製造	47.9		
再資源化量小計			3,030.6	
中間処理量合計			4,038.0	



3. 環境方針 *Environment Policy*

基本理念

Basic Principles

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに社会貢献してまいります。

行動指針

Guidelines for action

- 1 環境理念を実現するため環境目標を設定し、環境負荷低減活動を実施します。
- 2 環境関連法及び当社が同意するその他の要求事項を確実に遵守します。
- 3 廃棄物排出量の抑制・埋立・焼却処分の最小化、さらに廃棄物のリサイクル化、再資源化を図り省資源・省エネルギー・CO₂削減、環境負荷の最小化に努めます。
- 4 環境方針、環境目的、環境目標は、必要に応じて改訂します。
- 5 環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、関係お取引先を含め一般に公開します。

2017年5月25日 制定

環境開発工業株式会社

代表取締役社長

高澤 洋一 



4. 環境活動計画 *Environmental activity plan*

1 二酸化炭素排出量の削減

- ◆ 産業廃棄物収集運搬車輛におけるエコドライブの促進と燃費向上に努める
- ◆ 製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減

2 省資源の促進

- ◆ 水を扱うすべての構内において節水を意識し、使用量を削減する

3 資源循環の向上と埋立量削減促進

- ◆ 再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献する
 - ① 廃油の再生重油化
 - ② 廃プラスチック類のRPF（固形燃料）化
 - ③ 鉄、非鉄スクラップの素材化
- ◆ 中間処分品目の分別及び選別の徹底により、埋立廃棄物の削減を図る

4 環境配慮製品の利用推進と導入

- ◆ 地球環境に配慮したバイオ製剤の利用
- ◆ 環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進
- ◆ 車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮

5 次世代に繋がる環境貢献活動の推進

- ◆ 取引顧客に対するリサイクル活動の啓蒙及びリサイクルデータの提供推進
- ◆ 「森とアースへのエコプロジェクト」の賛同による森林維持及び保全活動の支援



5. 環境目標・実績 Environment target&Performance

5-1 2018年度目標及び取組み結果

環境目標項目	単位	主幹部門	前年度実績 2016年10月~ 2017年9月	今年度目標値 2018年度	目標値		今年度実績 2017年10月~ 2018年9月	目標比	評価		
					基準値比	達成手段					
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	20,418.0	20,418.0	現状維持	アイドリング時間の削減	21,788.0	1,370.0	×	
	化石燃料 使用量	軽油	ℓ/年	業務部	242,027.0	242,027.0	現状維持	急加速・急ブレーキの抑制	230,021.0	-12,006.0	○
		灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	18,086.0	18,086.0	現状維持	ウォームピズの推進	22,191.0	4,105.0	×
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	62,000.0	74,400.0	20.0% 増	ボイラの仕様変更により 重油に切替えた為、 今期要観察	78,000.0	3,600.0	×
		LPG	kg/年	オイルリサイクル課	70.0	70.0	現状維持	ボイラ使用時の着火源 の為、現状維持	80.0	10.0	▲
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	381,042.0	400,094.0	5.0% 増	第3工場新設に伴い、 今期要観察	387,936.0	-12,158.0	○
	廃油使用量	工場・施設	ℓ/年	オイルリサイクル課	0.0	0.0	機械の仕様変更により A重油に切替	機械の仕様変更により A重油に切替	0.0	0.0	-
	二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	-	1,153,425.0	1,199,904.0	5.0% 削減	*****	1,183,437.0	-16,467.0	○
収集運搬車両 燃費向上		km/年	業務部	3.6	3.7	3.0% 向上	急加速・急ブレーキの抑制	3.4	-0.3	×	
省資源	水の使用量削減		mi/年	生産部 管理部門	1,158.0	1,010.0	10.0% 削減	RPF燃料製造時の冷却を スプリンクラー仕様に変更	1,784.0	774.0	×
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	9,303.3	9,303.3	現状維持	廃油収集量前年同等で あるため、要観察	9,955.0	651.7	○
		RPF(固形燃料)	t/年	産廃リサイクル 課 OARリサイクル課	533.2	613.2	15.0% 向上	原料分別強化	658.7	45.5	○
		プラスチック	t/年		238.3	250.2	5.0% 向上	原料分別強化	96.4	-153.8	×
		非鉄・金属	t/年		3,034.0	3,480.0	15.0% 向上	分別エリア変更に伴い 手法向上	3,169.0	-311.0	×
	中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル 課	108.5	54.3	50.0% 削減	分別強化により、RPF 原料へシフト	41.8	-12.5	○
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	92.0	100.0	10.0% 向上	原因者に対する浄化処 理方法へ提案、促進	438.0	338.0	○
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部	6.0	8.0	2種 増量	購入時に優先検討	11.0	3.0	○
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	0.0	1.0	1車入替検討	車両入替時に検討	3.0	2.0	○
環境・社会貢献	森林維持 保全活動	森とアースへのエコ プロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	現状維持	オイルリサイクル組合 との共同参加支援	1.0	0.0	○
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	5.0	6.0	6回 実施	2か月に1度全社員実施	6.0	0.0	○
	取引顧客のリサイクル 活動の支援促進	取引顧客に対するリサイ クルデータ配布数	件/年	営業部	45.0	50.0	現状維持	分別指導の促進による リサイクル値支援維持	42.0	-8.0	▲

※電力算出係数 北海道電力2015年度0.676t-CO₂/kwhを使用

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更



5-2 年度別環境目標（中期3か年）

環境目標項目		単位	主幹部門	前年度実績 2016年10月～ 2017年9月	中期目標値			
					2018年度(今年度)	2019年度	2020年度	
二酸化炭素排出量削減	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門	20,418.0	20,418.0	23,160.0 是正值 21,570.0	22,692.0 是正值 21,352.0
		軽油	ℓ/年	業務部	242,027.0	242,027.0	217,584.0 是正值 229,331.0	213,228.0 是正值 228,871.0
		灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	18,086.0	18,086.0	16,824.0 是正值 22,191.0	16,488.0 是正值 21,969.0
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	62,000.0	74,400.0	64,680.0 是正值 78,000.0	63,384.0 是正值 78,000.0
		LPG	kg/年	オイルリサイクル課	70.0	70.0	60.0 是正值 80.0	60.0 是正值 80.0
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	381,042.0	400,094.0	339,576.0 是正值 384,057.0	332,784.0 是正值 380,177.0
	廃油使用量	工場・施設	ℓ/年	オイルリサイクル課	0.0	0.0	0.0 A重油運転へ切替のため目標項目より削除	0.0
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	*****	1,153,425.0	1,199,904.0	1,088,280.0 是正值 1,178,433.0	1,066,512.0 是正值 1,173,543.0	
収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.6	3.7	3.8	3.9	
省資源	水の使用量削減		m ³ /年	生産部 管理部門	1,158.0	1,010.0	990.0 是正值 1,784.0	970.0 是正值 1,766.0
資源循環・埋立削減	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	9,303.3	9,303.3	9,000.0 是正值 9,311.0	9,000.0 是正值 9,311.0
		RPF(固形燃料)	t/年		533.2	613.2	650.0	680.0
		プラスチック	t/年	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	238.3	250.2	300.0 輸出規制により全面RPF原料へシフト	300.0
		非鉄・金属	t/年		3,034.0	3,480.0	3,480.0	3,600.0
中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル課	108.5	54.3	24.0	12.0	
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	92.0	100.0	100.0	100.0
	グリーン購入(環境配慮製品含む)		種/年	総務部	6.0	8.0	10.0	10.0
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	0.0	1.0	1.0	1.0
環境・社会貢献	森林維持保全活動	森とアースへのエコプロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	5.0	6.0	8.0	10.0
	取引顧客のリサイクル活動の支援促進	取引顧客に対するリサイクルデータ配布数	件/年	営業部	45.0	50.0	50.0	50.0

※電力算出係数 北海道電力2015年度0.676t-CO₂/kwhを使用



6. 環境活動結果とその評価、次年度の取組み内容

Results of environmental activities and their evaluation, efforts in the next fiscal year

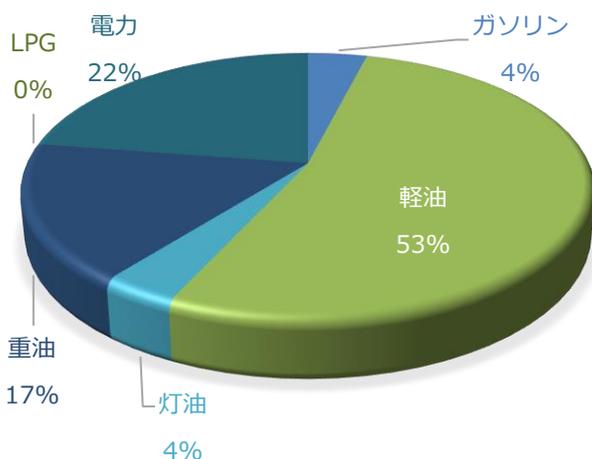
昨年6月から本格的に本プログラムの運用を開始し、今期で丸1年の運用を行いました。

新たな施設の稼働や大気汚染防止法遵守のため、設備の改良を行ったことによる使用燃料の変更により、今年度の目標数値を大幅に下回る結果となりました。次年度以降は稼働率の低い施設や設備の見直しや、そもそも設定した目標値が妥当であったかを含め、環境負荷軽減の運用に努めてまいります。

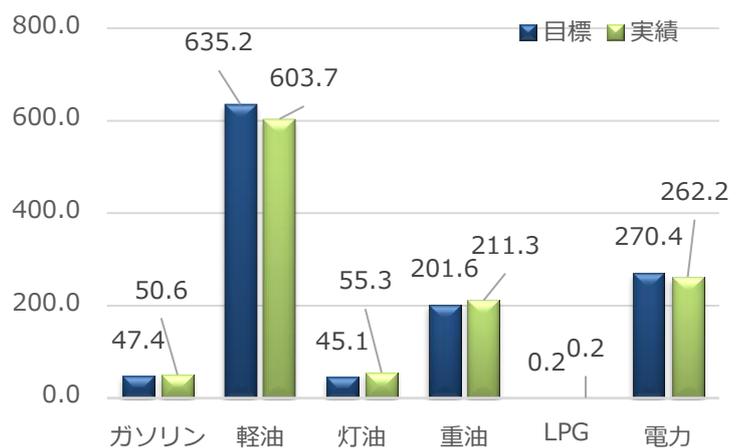
1. 二酸化炭素排出量削減

t-CO ₂ /年	目標	実績	差異	考察
ガソリン	47.4	50.6	3.2	ガソリン仕様の作業車両増に伴い、使用量UP
軽油	635.2	603.7	-31.5	業務車両1車減及び遠隔地を中心に回収ルートの見直しを強化
灯油	45.1	55.3	10.2	第3工場の冬季本稼働及びエレメント工場の暖房新設により使用量UP
重油	201.6	211.3	9.7	Nox対策によりボイラの燃料源を再生重油からA重油へ変更により大幅UP
LPG	0.2	0.2	0.0	
電力	270.4	262.2	-8.2	台風、地震による停電の影響が排出量減と思われる（厳密な使用減ではない）
TOTAL	1,199.9	1,183.3	-16.6	目標値比較、▲16.6 t/年 排出量削減

【① 使用エネルギー別 CO₂排出量構成率】



【② 使用エネルギー別 CO₂排出量目標対比】



主な業務が収集運搬ということもあり、全社の使用エネルギーから排出されるCO₂の半分以上は軽油から発生（①参照）使用エネルギー別では軽油からのCO₂を大きく削減すること出来、これらは遠隔地の回収頻度やルートを再構築したことが数字にも現れた。電力については数字上削減となっているが、9月に発生した台風21号と胆振東部地震による停電によって使用量が削減された結果と思われるため、今期の削減努力としては評価しないものとする。

ガソリン、灯油については社員個々人の心がけで削減に繋がるため、啓蒙活動を強化する必要がある。

（重油使用量については、再生重油製造時にボイラ燃料として増量となるため、要観察事項）

今期の総体評価として、▲16.6 t/年-CO₂ = ※1,178本/年を植樹に頼らず運用できたが、大きな削減とはいえない難しい結果であるため、より一層のエネルギーや植樹に依存しない体制づくりが急務である。



※樹齢10年の杉の木約71本で年間1 tのCO₂を吸収することが可能と言われている

2. 省資源の促進・節水

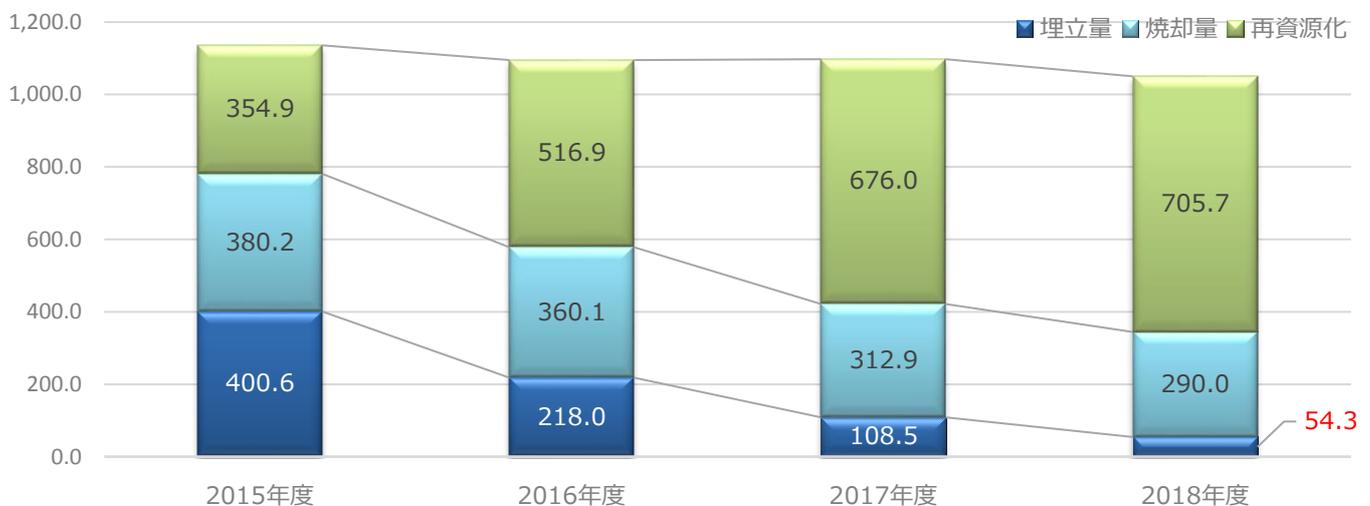
常日頃節水には心掛けてはいるものの、RPF製品冷却のためのスプリンクラー稼働や油漏洩事故の受注アップにより使用量の予測がまだ付かず、結果的に目標値を是正することとなった。次年度に向けて節水方法や再利用を検討するなど、当社の長期的な課題として取り組みを強化したい。

3. 資源循環・埋立削減

2015年度より、社内全体で「構造改革」に着手。特に廃プラスチック類については、分別するための作業環境や動線の非効率もあり、2015年度は400t/年（35.3%）を埋立処理にしていた。

この数値を改善するべく、2017年3月から廃プラスチック専用工場を稼働させ、再資源化となるものを徹底的に選別し、RPF原料へとシフトさせ、埋立率5.2%、焼却率27.6%までに引き下げ、廃プラスチック全体受託量のおよそ70%弱を再資源化させることに成功できた。

【③ 事業年度別廃プラスチック類処理方法別実績】



4. 環境配慮・貢献活動

今期は積極的に環境配慮製品を導入。特に、収集運搬許可車両2車に加え、当社初のPHEV車も導入し、入替予定だったパソコンや文具類についてもグリーン購入適合品を採用しました。



BMW i3
環境省・経済産業省・国土交通省
次世代自動車2016-2017 電気自動車紹介車





5. 環境・社会貢献活動

■ 構内緑化とごみ箱の設置

6,400坪の敷地にも関わらず、ゴミを手軽に捨てられるゴミ箱がないことに気づき、構内6か所にペール缶とブロックを再利用した2分別（金属・プラスチック）用ゴミ箱を設置しました。

しかし、無機質な感じのゴミ箱になってしまったため、緑化を兼ねてブロックの穴に花苗を植えてみました。

このことをきっかけとして、今期は緑化に力を入れ、今までにはなかった構内各所に沢山の種類の花を植え、癒されました。

来年度も緑化の範囲を広げ「彩のある構内」を目指していききたいと思います。



会社名	住所	電話番号											
株式会社 産廃処理センター	〒001-8504 北広島市 北広島 1-1-1	011-273-2728	株式会社 産廃処理センター	〒001-8504 北広島市 北広島 1-1-1	011-273-2728	株式会社 産廃処理センター	〒001-8504 北広島市 北広島 1-1-1	011-273-2728	株式会社 産廃処理センター	〒001-8504 北広島市 北広島 1-1-1	011-273-2728	株式会社 産廃処理センター	〒001-8504 北広島市 北広島 1-1-1

長年、見づらい状態で道路際に掲示していた「産廃保管施設掲示板」を移設しました。産廃看板は少し無機質な感じのため、背景に自然を感じるイラストと、緑化を兼ねて「つつじ」の苗木7本を植樹しました。毎年5月～6月にはピンクの花が咲き誇る予定です。



← 現在の写真は苗木のみですが、来年の5月にはピンクのお花がたくさん咲くこと期待しています

■厚真町災害ボランティアの参加

2018年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」で最も被害が大きいとされる厚真町の「家財、災害ごみの搬出作業」のボランティアとして、ER課2名の社員が地崎道路さんと一緒に活動させていただきました。
未だに余震も続き、多くの方々がご自宅に戻れず避難所生活を余儀なくされています。一日も早い復興をお祈りしています。



■環境汚染防止対策

回収した金属には、潤滑油系の油が付着していることも多く、金属ヤード内に油汚れが溜まります。
そこで構内外の流出を防止するため、バイオの力で自然に戻る「油とりクリーナー」を常備し、高圧洗浄機で隅々まで洗浄、環境汚染を未然に防いでいます。



■構内外の清掃活動を実施



月に一回ほど、社員全員で構内と当社周辺の清掃活動を実施しています。

特に道路には隣のコンビニから、利用客のポイ捨てゴミが飛散・・・



当社から出たものではなくても周辺地域の美観を保つことは、環境を担う企業としての役割だと考えております。

■森とアースへのecoプロジェクトへの参加（本年度4回目の参加）

2014年度より「森とアースへのエコプロジェクト」が開始され、今年度で4回目の参加となりました。



当初は当社単独で2年ほど参加をしておりましたが、現在は「全国オイルリサイクル協同組合」に加盟する10社も参加を表明、「廃油リサイクルから森づくり」を掲げ、日本各地の森林保全活動の支援を通じたCO₂削減や生物多様性の保全活動に微力ながら貢献しております。
尚、全国オイルリサイクル協同組合として参加した回より「Jクレジット」として50 t-CO₂/回を取得し、現在100t-CO₂を所有しています。





7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 Compliance

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法律・条令	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両No.9718新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2017.11 保管場所No.7移設、他運搬車変更
	処分業内容の変更	◎ 2017.11 処分保管場所No.23廃止
	処理施設内容の変更	◎ 変更なし
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2018.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2018.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2018.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2018.6 札幌市へ報告
大気汚染防止法	炉筒煙管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内 ボイラ使用燃料をA重油に変更したため、Nox基準値内を維持
	水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	事務所内業務用エアコンの 定期点検（4回/年）	◎ 2017.8 定期点検実施
海洋汚染海上災害防止法	事業実績報告	◎ 2017.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期は家電廃棄なし
自動車リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 車両3台導入 リサイクル料金購入時清算
消防法	危険物施設、設備 全社構内	◎ 2018年度の年次立入検査は実施なし 2018年10月（2019年度）に実施予定
北海道公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 既存設備以外の届出発生なし

7-2. 違反・訴訟の有無

前期は、大気汚染防止法の特定施設となっている「炉筒煙管ボイラー」のばい煙測定結果がNox基準値を超過したため、「炉筒煙管ボイラー」で使用している燃料を「廃油」から「A重油」に切替え、今年度（2017年11月末日）、A重油仕様のバーナーへ改修工事を実施しました。

この対応により、3回測定したNox値はすべて基準をクリアし、法遵守で運用しています。



8.代表者による全体の評価と見直し

President evaluation

8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ あり

2.資源循環の向上と埋立量削減促進の③廃プラスチックの素材化については、2017年7月に発表された中国のナショナルソードにより、素材プラスチックの輸出が事実上、困難となった。

暫定処置として、中国以外のアジア諸国へ一時的に輸出をしたが、そう長くは続かないと思われる。

よって、素材として輸出していたプラスチックについては、従来より行っているRPF（固形燃料）の原料に加え、③は資源循環の実施項目から削除を行うこととする。（但し、排出事業者からの指定がある場合は別途協議）

【環境目標】 変更有無 ⇒ あり

■二酸化炭素排出量削減 ガソリン使用量

管理車両を作業車両にシフトさせたことにより、走行距離が大幅に増え、ガソリン消費量が上がったことは明白である。今後の新規車両を導入する際は、低燃費車はもちろんのこと、アイドリングストップを強化した運用が必要である。

今期は予定外の車両使用変更であったため、**今期実績を踏まえた**

目標値に是正すること。（2019年度、2020年度目標についても2018年度実績を鑑みた目標設定とする。）

【単位：ℓ/年】

ガソリン使用量	当初	是正後
2018年度	20,418	21,788 実績
2019年度	23,160	21,570
2020年度	22,692	21,352 前年▲約2%

■二酸化炭素排出量削減 軽油使用量

遠方回収の周期見直しや回収ルート合理化を中心に見直しが功を奏し、今期一番のCO₂削減項目となった。

今後も維持継続及び削減が図れるよう、**今期実績を踏まえた**

目標値に是正すること。

【単位：ℓ/年】

軽油使用量	当初	是正後
2018年度	242,027	230,021 実績
2019年度	217,584	229,331
2020年度	213,228	228,871 前年▲約1%



■二酸化炭素排出量削減 灯油使用量

第三工場及びオイルエレメント工場の2施設が本稼働したことにより、灯油の消費量が予想以上に増えた。

しかし、必要最低限の寒さ対策は必須であるため、**今期実績値を踏まえた目標値に是正**すること。

【単位：ℓ/年】

灯油使用量	当初	是正後	
2018年度	17,169	22,191	実績
2019年度	16,826	22,191	前年維持
2020年度	16,489	21,969	前年▲約1%

■二酸化炭素排出量削減 重油使用量

Nox基準値遵守により、炉筒煙管ボイラの燃料を「廃油」から「A重油」に切替えたことにより使用量は格段に増大している。また、今期は再生重油の製造量増により、ボイラの稼働時間も増えていることから、重油の目標値についても**今期実績を軸とした目標値に要修正**のこと。

【単位：ℓ/年】

重油使用量	当初	是正後	
2018年度	5,500	78,000	実績
2019年度	64,680	78,000	前年維持
2020年度	63,386	78,000	前年維持

■二酸化炭素排出量削減 電力使用量

今期は、台風21号、胆振東部地震による連日の停電により丸2日間の稼働がストップしたことにより、電力使用量が削減されたとみられ、自主努力の成果とは言い難い。

よって2019年度、2020年度は**今期実績同様の数値を軸にした目標値に修正し、要観察**とする。

【単位：kwh/年】

電力使用量	当初	是正後	
2018年度	400,094	387,936	実績
2019年度	339,576	384,057	前年維持
2020年度	332,784	380,177	前年維持

■二酸化炭素排出量削減量

今期は軽油の使用量は抑えられたものの、それ以外の化石燃については大幅UPに繋がっている。

生産量、業務量に応じた使用量UPは否めないが、少しでも「節約」の意識をもってCO₂削減にも貢献し、わずかであるが、**前年対比微減で目標設定**すること。

【単位：t-CO₂/年】

CO ₂ 発生量	当初	是正後	
2018年度	1,199	1,183	実績
2019年度	1,088	1,178	前年▲0.4%
2020年度	1,066	1,173	前年▲0.4%

■省資源の促進 水の使用量

本目標値は、月間使用量を平均して設定を行ったはずだが、本年5月より、製品RPFを冷却するためのスプリンクラー導入やER課の油漏えい事故処理の受注により、水で希釈したバイオ製剤を現場に持ち込むため、使用量増の起因になっている。こちらは生産量や受注量によって変動が激しくなるため、**今期同等の平均値で目標変更**とする。

【単位：m³/年】

水道使用量	当初	是正後	
2018年度	1,010	1,784	実績
2019年度	990	1,784	
2020年度	970	1,766	前年▲1%

再生重油、非鉄金属、RPF出荷量については、回収量と比例した出荷量となるため、日々の営業活動を大切に、前年度以上に回収量及び出荷量の維持、向上に繋げたい。



8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）

私どもは、ISO14001の規格改定をきっかけに「エコアクション2.1」への取組みを開始し、昨年12月、無事に認証・取得することができ、順調に1年が経過しました。

特に、本プログラムの運用を通じて感じたことは「CO₂削減」であり、「喫緊重要課題」であることにも気づかされました。

というのも、今年は日本各地で異常気象や甚大な災害が多数発生し、災害が少ないといわれていた北海道でも「台風21号」が到来、翌日には震度7を記録した胆振東部地震が発生し、北海道内すべてが停電するという「ブラックアウト」が生じました。

この事態によって改めて痛感したことがあります。

それは、数日間の停電にも耐えられないほど「電気依存化」していたということです。

自動車、ITの普及、年中無休や24時間営業等、これらの利便性は電気をはじめとするエネルギーがあってこそ成立していますが、一方でCO₂を増やしていることにもなります。

2016年時点で、日本国内のCO₂排出量はおよそ「12億t」、国民一人あたり約9tのCO₂を排出しています。

また、国土の約70%が森林にあたる「森林大国ニッポン」であるにもかかわらず、1年間に排出量の7%分しかCO₂を吸収できていない現状からみても、地球温暖化が進む一方でしょう。このように、化石燃料に頼った社会や個人の生活は、CO₂の大量発生とそれに伴う地球温暖化の加速と近年の自然災害の甚大化をもたらしました。

今年は、世界中でこれら巨大化した自然災害を体験し、人類の大きな課題として実感しました。日本は、2030年までに2013年度比：26%のCO₂を削減するという目標を掲げ、COP21で宣言をしています。

私たちはこの目標達成に貢献できるよう、「26%の我慢」と「26%の待つ心」を念頭に新たな決意で本プログラムを推進してまいります。

環境開発工業株式会社

代表取締役社長

高澤 洋一 